

第 I 部

教職を目指す学生へ

教員採用合格者の経験を聞く

— 2017 年度「教員採用試験合格者の体験を聞く会」の記録 —

「教員採用試験」を知り己を知れば百戦殆からず

池田 遼太郎（文学部史学科 4 年）

私は、平成 29（2017）年度実施の神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験（以下、神奈川県教員採用試験）に「高等学校・地歴・日本史」の校種等・教科・科目で受験し、合格しました。ここでは、私の神奈川県教員採用試験受験にかかわる体験や経験を述べていきたいと思います。

1. 準備—どのような姿勢・態度で臨んだか—

私は、教員採用試験の学習・対策を教員に必要な資質・能力を培い、高めるためのものであると考えました。そのため、教科専門の対策は学習した単元・題材をどのように授業を行うか考えながら行うこと、個人面接の対策は自分自身を振り返り、分析すると共に学校教育における課題とその克服・解決方法を考えること、等を意識的に行いました。

具体的な準備としてははじめに、神奈川県教員採用試験のホームページで、①試験内容②配点③合格に必要な点数を確認しました。また、『教職課程』（協同出版）や『教員養成セミナー』（時事通信出版局）などでは、一般教養・教職専門試験に関する分析が掲載されているので参考にしました。

次に、教科専門と一般教養・教職専門の過去問（共に協同出版）を購入しました。しかし、これだけでは足りないので、教職課程センター（富士見坂校舎 3 階）でさらに過去の問題を参照しました。過去問研究を行うことで、自分は何が得意で何が苦手なのかを知ることが大切だと思います。

準備において、同じ教科・科目、あるいは同じ自治体等を受験する仲間とグループを作ることとても大切だと思います。特に第 2 次試験対策は 1 人では難しいので、グループを作り、はやい段階から第 1 次試験と並行して第 2 次試験対策を行う必要があると感じました。

2. 対策—何を・どのように行ったか—

試験日から逆算して「何を・どのように」すべきか考えることが大切だと思います。その際、教育実習を考慮する必要があります。私の場合は 5 月下旬から 6 月上旬に教育実習があったので、第 1 次試験対策は、教育実習開始前までに基本的事項のインプットを終らせ、教育実習終了後は問題演習を中心に行いました。

教育実習は、その期間中すべてがよい経験となりま

す。教育実習での経験は自らを成長させてくれると共に、教員採用試験においてもプラスになります。

(1) 第 1 次試験対策（200 点満点）

過去問研究の結果、第 1 次試験対策は教科専門 5：教職専門 3：一般教養 1：（論文試験 1）の割合で学習することにしました。

①教科専門（地歴・日本史）：配点 100 点

地理・世界史はセンター試験の平均点を、専門である日本史は 90 点を超えることをめざしました。私の場合はテキスト類（地理：『山岡の地理 B 教室』、世界史：『ナビゲーター世界史 B』、日本史：『詳説日本史 B』）の読解と問題集（過去問、センター試験）の演習を繰り返し行いました。

②一般教養・教職専門：配点 100 点

過去問演習を中心に行いました。一般教養・教職専門共に頻出の分野が固定されている傾向にあるので、過去問研究・演習が大切だと思います。また、「教育法規」や「教育時事」などの分野は論文試験や個人面接でも必要になるので、特に丁寧に学習しました。

(2) 第 2 次試験対策（300 点満点）

神奈川県教員採用試験の場合、第 1 次試験から第 2 次試験の間隔が試験終了後から約 1 カ月、結果発表後から約 2 週間なので、第 1 次試験終了後から対策を始めるのでは遅いです。はやい時期からの対策が必要です。

①論文試験：配点 40 点

論文試験は第 1 次試験時に解答し、第 2 次試験の配点となります。よって、特にはやめの対策が必要になります。私は、教職課程センターの講座を利用して、論文の執筆・添削を行いました。論文試験は、たくさん論文を書き、論文の「型」を身に付けることが大切だと思います。

②模擬授業・協議：配点 60 点

模擬授業・協議共に教職課程センターでのグループ学習で対策しました。特に直前期は同じ神奈川県教員採用試験を受験する学生でグループを作り、模擬授業・協議を通して練習を行いました。この練習方法はとても効果的であったと考えているのでぜひ実践してほしいと思います。

③個人面接：配点 200 点

個人面接の対策は教職課程センターの「教職相談」を利用しました。また、「予想質問」とその回答案を

プリントにまとめました。回答案の作成にあたっては、「かながわ教育ビジョン」や「学習指導要領」等の資料や教育法規を参照しました。個人面接は配点が高いこともあり、最も力を入れて対策しました。

3. おわりに

私が神奈川県教員採用試験に合格することができたのは、多くの人の支えがあったからです。教職課程センターのみなさんは私に対して適切な指導・助言をくださいました。教育実習では、指導教員の先生を中心にたくさんの先生方から授業方法や内容・構成、生徒指導や学級経営等について学ぶことができました。神奈川県の対策グループで共に対策をしたみなさんからは様々な刺激やヒントを得ることができました。教科の対策グループでは豊かな個性をもつ仲間と共に学習したことが私を成長させてくれました。全員のお名前を出すことはできませんが、ここに厚く謝意を表します。

これから、教員採用試験を受験されるみなさんもぜひ、志を同じくする仲間たちと共に学習・対策をしてください。

教師として在るべき姿を模索して

廣瀨 翔太（文学部史学科4年）

今年度、横浜市中学社会において教員採用試験を受験し、合格した。また、私は昨年10月から今年の6月にかけて横浜市教育委員会育成課が主催するよこはま教師塾アイ・カレッジに通い、教員採用試験を合格するためではなく一教師として働いていくための資質・能力の向上に努めた。その学びや教員採用試験の経験から感じ、考えたことがいくつかある。

1つ目は、教師という存在価値についてである。教師になりたいという気持ちをもつことは簡単だが、だからと言ってなれるかは別ものであり、教師は誰に求められて存在が位置付けられているのが大切である。誰のためかという何より生徒のためであり、それを鑑みると教師としての資質・能力が足りなければ落とされても仕方がないと私は考える。とはいえ、私自身もまだまだ未熟者であり、学ぶべきことは多くあると思っているため現在においても週2~3回現場に赴いている。とにかく、生徒という他人本位であることを理解し、そのために自分に何ができるのかを考えて行動しなければ教師にはなれないと考える。

2つ目に、理論は大切だが実践からの方が多くを学ぶことができる。4年間を通した法政大学教職科目の学びも大切であるが現場での経験も大切である。理論ばかりでは頭でっかちになってしまう。理論は実践での結果を概念化、抽象化したものであるが実践を、現

場を知らないため実るものは少なかった。現場に出れば、その場その場の対応の連続である。マニュアルなんてものはない。だからこそ、実践経験を多く積み、引き出しを増やしていくことがとても大切であると考ええる。

3つ目によこはま教師塾アイ・カレッジでの学びを振り返りたいと思う。私の中でとても印象に残った講座が授業力講座と学級経営・学校経営ビジョンの構築についてである。授業力講座に関してはアイ・カレッジの学びにおいて最も重きを置いていた講座であった。なぜなら、教師の一番の仕事は授業であり、また横浜市の調査によると生徒が教師に望むことの一番は分かる授業であるからだ。授業において私が意識したことはもちろん生徒の興味・関心に基づいたものにしていくこともだが、一番は指導と評価の一体化である。何を教え、どのような力を生徒に身につけさせるのかをはっきりさせることはとても大切だ。しかし、これと生徒の興味・関心を引き出すための面白いネタとをリンクさせるのがとても難しく、尋常ではないほどの教材研究をおこなった。一方で、学級経営に関しては日々の積み重ね方の大切さを学んだ。集団ではなく、1つの組織としてまとまっていくためには目的、目標が必要である。しかし、部活動と違って1つの目標に向かわせることの大変さ、目に見える結果がすぐくないことからしても学級経営は難しい。1年間の中にある行事という目に見えやすいものだけ頑張らせようとしてもその時にはもう遅い。日々の生活の中での声掛けや雰囲気・ルール作り、集団だけでなく個にも着目し、リーダーの発見をし、主体的に学級が運営させるような環境をつくるのが大切である。

採用試験もアクティブラーニングで

三上 彩夏（文学部英文学科4年）

私は、埼玉県の教員採用試験に合格することができました。校種・教科は、中学英語です。私が採用試験に向けて行ったことや思ったことを伝えたいと思います。

一次試験

埼玉県の筆記試験では、専門科目や教職教養はもちろん、一般教養からも幅広い範囲から出題されるので、地道に勉強していく粘り強さが必要です。私は、3年生になった頃から勉強を始めました。一番初めは、①教職教養に手を付けました。これは、初めて見る用語や覚えることが難しい法規が含まれているので何度も繰り返すことが大切です。②一般教養も、分野が広いから早くから対策を始めました。埼玉県の一般教養の中には、③ご当地問題や④時事問題も含まれます。そ

のため、埼玉県教育委員会のホームページで政策などをよく調べるとともに、ニュースや新聞に目を通すようにすることも大切です。⑤専門科目では、英単語と英熟語をそれぞれ一冊暗記し、加えて過去問を5周しました。英語は特にアウトプットが重要だと思います。

私は以上の5つの分野に分けて、一日の中ですべての分野に触れるように計画を立てました。偏った分野に力を入れるのではなく、広く勉強することが重要だと思います。4月からはアウトプットを多くし、たくさんの問題集を解いて自信をつけました。また、私は予備校には行かずに自分で勉強法を決めました。これまでは塾や予備校に頼って勉強してきましたが、夢を叶えるこの試験には自分の力で立ち向かいたいという思いと生徒が自分の勉強法を見つけることができるように導くことのできる立場になりたいという思いがあったからです。予備校には行きませんでした。大学の教職課程センターはたくさん利用しました。センターには豊富な情報を持った職員さんや数多くの参考書があります。私は講座に出席し、参考書をたくさんコピーして活用しました。そして、センターを利用することによって同じ夢を目指す多くの仲間と出会うことができました。仲間と勉強の方法や内容を話し合うことによってより知識が深まり、自分も頑張ろうという思いが強くなります。

二次試験

一次試験の合格をいただいた後は、嬉しい気持ちと焦りがありました。なぜなら、私はほとんど二次試験対策をしていなかったからです。初めは、面接カードを作成するために質問に対する答えをひたすら書いていました。しかし、面接は自分の思いを口で相手に伝えることができなければいけないので、仲間とたくさん実践することが一番大切だということに気がきました。初めの面接練習の時に、どうして教員になりたいのか、教員になったらどんなことがしたいか、私はうまく言葉にすることができませんでした。教員になりたい思いは強かったのですが、それを言葉にするのはとても難しいと思いました。ですが、仲間と教育に対する考えや思いを話し合っていくうちに、自分が教員になりたい理由、どんな教員になりたいか、何がしたいかがはっきり見えてきました。仲間と話すことによって新たな発見があり、自分の考えも深めることができました。埼玉県の試験の特徴でもある場面指導も、最初は恥ずかしかったのですが、先生やセンターに通う仲間と何回も練習することで想定できる場面が広がり、本番は自信をもってできました。

私はこのように、教員採用試験に向けて仲間と学ぶ合うことによって自分の知識や考えをさらに深めることができました。現在の学校では主体的・対話的で深

い学びの実践が求められていますが、採用試験も同じように仲間と助け合い、一緒に目指すことで知識も考えもアイデアも広く深く学ぶことができると思います。

今では、この学び合いによって得た自分の教育観を、4月から現場で実践することが楽しみです。3年生の皆さんも、ぜひ仲間を見つけ、共に夢に向かって頑張ってください。

経験と仲間

秋山 大樹（文学部英文学科4年）

みなさんこんにちは。千葉県の公立、中・高英語の教員採用試験に合格しました、文学部英文学科の秋山大樹です。宜しくお願いします。今日は、私が教育実習や教員採用試験に向けて大切にしていたこと、そしてみなさんにも大切にしてほしい“経験”と“仲間づくり”についてお話します。

いきなり“経験”と言われても抽象的すぎて、「何じゃそりゃ」といった印象をもたれるかと思います。それでいいのです。みなさん一人一人、それぞれにとっての経験を大切にしたいのです。これまで20年ほど生きてきて、必ず、教員を目指すきっかけとなった思い出や、現在の自分をかたちづくるような経験があったはず。そういったものを今一度振り返り、頭の中で整理して、誰にも負けない一番の武器にしてください。絶対に、教育実習でも採用試験でも生きてきます。

また、大きな枠組みの経験だけでなく、具体的な教職関係の経験もみなさんに強くおすすめします。いわゆる、教職ボランティアのお話です。（やっている人、やろうと思っている人を尋ねてみてもいいかも。）私自身は、千葉県の教育委員会がおすすめしている「教職たまごプロジェクト」と自宅近くの児童養護施設でのボランティアを経験しました。実際の現場でしか得られない体験や知識、新しい発見やワクワクするような出来事がたくさんあります。そういった“生きた話”を採用試験の面接ですることも可能ですし、改めて自分自身が教員になりたいのだと再認識できたりもしました。だからこそ、みなさんにもぜひ、何かしらの経験をしてほしいのです。探し方が分からない人も中にはいると思います。安心してください。困ったときに本当に本当に頼りになる、優しい教職課程センターの職員さんや経験豊富な笠谷先生がいらっしゃいます。一步入ればすぐに「こんにちは」と笑顔で声をかけてくれて、欲しい情報や必要な助けをくださいます。ボランティアの情報だけでなく採用試験の情報やそれ以外の進路の相談にもものってください。まだ利用し

たことが無いよ、という方がいたら、すぐにでも利用してみてください。

そんな、教職課程センターの方々と同様に、大きな助けになってくれたと感じるのは同じ教員を志す仲間の存在です。これから冬に向けてみなさんは勉強や対策を進めていくと思います。そんな姿をみて、周りの友人は「もう始めているんだね。頑張ってるね。」なんて言ってくれたりもするかと思います。そんな状況が、年を越したあたりから変わってくるのです。1月2月になると、それまで比較的のんびりしていた友人も「エントリーシート、自己分析 SPI、面接対策」といった言葉を口にするようになり、3月に入ると学内企業説明会のために大量のスーツの集団が大学に押し寄せてきて、私服で机と向き合うことの多い私たちは急に孤独感や疎外感を感じるようになります。そんな雰囲気吹き飛ばしてくれるのが仲間の存在でした。同じ教科や自治体の仲間と対策をしたり、ときに夢を語り合ったり、、、そうした時間がとても有意義でとても楽しかったからこそ、苦しいときも乗り越えることが出来たのだと私は思います。

ですので、今日のこの場もぜひ、仲間づくりの場としてほしいです。教職の授業で顔を合わせたことがある人、同じ自治体の人、同じ教科の人、、、今日をきっかけに一步踏み出して仲間づくりをしてみてください。その仲間は、実習や試験はもちろん、教員として生きていくうえでずっとずっと助け合える存在になってくれると私は思います。

“経験”と“仲間”を大切に、頼りになる人々の力を借りながら、みなさんが来年のいまを笑顔で迎えていることを祈っています。ありがとうございます。

教員採用試験に向けて

清水 歎奈（国際文化学部国際文化学科4年）

私は東京都の中高英語と私立学校に合格しました。私が独学で合格出来たのは、教職課程センターの職員方、また一緒に勉強してきた仲間の支えがあったからだ大変感謝しています。ここに、教員採用試験に向けて実際に私が行ったことについて、3つに焦点を絞って記します。これから採用試験合格を目指すみなさんにぜひ参考にしていただければと思います。

1. 勉強を始めた時期について

私は大学3年生の1月頃から勉強を始めました。まだ対策を始めていない方は、まずは自治体の問題集を開いてみることから始めてみて下さい。自治体の出題形式、範囲、傾向を把握したら、次は教科書となる参考書を使い暗記を始めてください。暗記がある程度完

成したら、練習問題や模試に取り組み、復習をしっかりとしてください。このサイクルを繰り返したら、全国の過去問をあたることをおすすめします。私はこのような勉強方法を、1日3~4時間ほど行っていました。

2. 東京都教員採用試験の特徴と対策

一次試験：筆記試験（専門100点、教職教養100点、論作文100点）

大きな特徴としては、教職教養の難易度の高さと、論作文の配点の高さの2つを挙げることができます。教職教養に関しては分野ごとに対策をし、基礎暗記→問題演習→復習というステップをしっかりと踏んでいくことが大切です。論作文に関しては、ある程度論文の型が決まり、具体策がストックできたところで、友人と添削し合うことが効果的です。私は週に1回友人と集まり、同じ論題の論作文を書き、添削し合っていました。友人の具体策からヒントを得ることもあり、共に高め合っていくことができました。英語の専門教養に関しては、英検準1級程度の単語・長文対策をしておくとうよいと思います。

二次試験：面接試験（集団討論、個人面接、実技配点非公開）

大きな特徴としては、集団討論に比重が置かれることと、個人面接で場面指導を多く問われるということの2つを挙げることができます。討論では、「テーマに関する背景・現状・解決策を示すことのできる知識量」と、「討論を円滑かつ協調的に進めていく技術力」の2つが問われます。知識を蓄えるために、私は中教審の答申を読み込み、教育新聞をスクラップしノートを作成するなどしていました。また、討論に慣れるために、自主学習グループでの討論や学外で行われる単発講座に参加しました。個人面接における場面指導で問われることは、「人として誠意ある対応ができるかどうか」、「しっかりとした教育観をもって対応できるかどうか」ということです。ぜひ試験までに教育に携わり、ご自分の教育観というものを形成して行って下さい。

3. 私立学校受験に関して

私は公立自治体の受験と並行して、私立学校の受験も行い、内定をいただきました。私学受験に関して、抑えておくべきポイントを3つ記します。1つ目は、情報収集を欠かさずに行うことです。私学の受験情報は、私学研究所をはじめ、いくつかのサイトで得ることができます。時期によって雇用形態も異なる（5~8月：専任その他、9月~11月：常勤非常勤、それ以降：非常勤）ので、私立専願の方も、公立と併願という方も抑えておくべきであると思います。教職課程センターの私学受験情報ファイルも大変役に立つと思います。2つ目は、模擬授業をする際の注意点です。私学の採

用試験の主な流れは、1次試験：書類審査、2次試験：筆記（専門科目）、3次試験：模擬授業＋教科面接、4次試験：管理職面接であり、殆どの場合受験者に模擬授業が課されます。模擬授業を実際に何校か行って見て問われていると感じたことは、指導項目がしっかりと指導されているか、生徒参加型の授業になっているか、生徒への接し方や板書に誤りはないかということです。これらの点に気をつけて、模擬授業をやってみて下さい。3つ目は、受験する私学の校風や特徴を捉えることです。私学にはそれぞれ建学の精神があり、それらに基づいた教育が行われているので、受験者もそれに強く共感しているということが大切だと思います。志望理由や教育観を尋ねる質問には、「自分はこんな経験をして、こんな志をもつようになった（校風と一致する部分）。だからこそこの学校でこんな教育がしたい」という熱い思いを答えられるとよいと思います。

教職課程センターは、皆さんと同じ志をもった仲間が集まる場所です。ぜひ教科の枠を超えて交流し、共に切磋琢磨する仲間を見つけて下さい。必ずその経験が背中を押してくれます。最後に、食欲に何にでも取り組むハングリー精神を忘れずに、夢を自分の手で掴み取って下さい。健闘を祈ります。

「低い腰と高い志で圧倒的努力を！」

梅林 知輝（経済学部国際経済学科4年）

私は、神奈川県と宮城県の高専公民科の教員採用試験を受験し、両方の自治体から、合格を頂きました。最終的な合格者数が、神奈川県が10人、宮城県が6人であり、倍率も十数倍あったので、非常に狭き門だったと思いますが、教職課程センターの先生方や大学の友人などに支えられたことで、合格することができました。まずは、私を支えてくださった方々に、心より感謝申し上げたいと思います。

① 勉強時期について

私は、教員採用試験の勉強を大学3年生の夏頃に始め、秋以降本格的に勉強していきました。当然ながら、大学3年生までは学部と教職、両方の単位を取らなければならなかったため、非常に忙しい日々を送っていました。大学3年生の1月に定期試験が終了し、春休みに入ったので、そこからは1日10時間を目安に勉強していきました。

② 一次試験について

一次試験に関しては、教職教養、一般教養、専門教養、論作文が課されました。社会科の場合、他教科よりも高い得点が求められます。そこで、教職教養は満点を死守するようにし、一般教養も音楽や美術等の分

野を除いてはできる限り得点できるようにしました。専門教養に関しては、センター試験で満点から九割五分以上は確実に得点できるようにしました。しかしながら、教採本番の得点は7割程度であったことから、まだまだ実力不足であると感じています。勉強方法についてですが、私の場合、赤シートを活用して勉強していきました。赤シートの場合、インプットもアウトプットも両方できるのでオススメです。また、意識したこととしては、ただ暗記していくのではなく、理解をするということです。公民科の場合、特に顕著ですが、マクロ経済学など、ただ暗記しただけでは解けない問題もあります。また、丸暗記しているだけでは、飽きてしまったり、モチベーションを持続し続けることが難しいと思うので、理解することを意識した勉強を心がけてください。関東地方の教員採用試験では、一次試験は一次試験のみの足切りとして利用され、最終的な合否判断に利用されることは少ないです。しかし、私が受験した宮城県では、一次試験の得点も最終的な判断の材料として利用すると、要項の方に記載されています。ですから、一次試験は足切りとして捉え、最低限の点を取ることを目標とせず、満点を目指して勉強して行ってください。

③ 二次試験について

二次試験に関しては、個人面接、集団討論（民間というGD）、模擬授業が課せられました。まず模擬授業ですが、模擬授業の配点自体は個人面接等に比べ、低い自治体が多いと思います。しかしながら、模擬授業をしてみるとその人の個性や性格や生徒への関わり方が一瞬で明らかになってしまう恐ろしい試験です。模擬授業をどうやったらうまくできるのか？と疑問に浮かぶ人がいるかもしれませんが、場数をこなせば上達していくのではないかと、個人的には思います。私自身も初めての模擬授業は緊張感丸出しで、本当に教採受験者なのか？と感じさせるものであったと思います。教育実習や仲間との練習を通じて、徐々に慣れていきました。ですから、場数をこなすことを意識してください。次に集団討論に関してですが、相手の話をしっかりと聞き、自分の想いを伝えることが最重要です。これは私生活でも大切なスキルの一つですが、後者はできても、前者ができない人は意外と多いです。教採の集団討論のために、練習するのではなく、普段の生活中で円滑な人間関係を築くためにも、「相手に話を傾ける（＝傾聴）」と「自分の想いを伝える（＝主張）」の両方を意識してほしいと思います。個人面接に関しては、教採の二次試験で最も配点が高い試験科目だと思います。個人面接で大切なことはたくさんありますが、試験のために自分自身を創り上げるのは避け、ありのままの自分を表現することが最も大切だと

思います。相手は面接を何度も担当している面接官です。試験で自分をよく見せようとしても、確実に見抜かれます。そして、試験のためだけに取り繕った人を採用したいと面接官は感じるのでしょうか。ある試験官は、「面接の評価項目はたくさんあるが、最終的には、この人と働きたいと感じる人を採用する」と仰っていました。普段から、社会や教育に関してアンテナを張り、視野を広げつつ、自分の考えを持てるように生活してみてください。

④ 自分の核となるもの

民間の就活でも公務員試験でも教員採用試験でも、「学生時代何をやってきたのか」ということは必ず聞かれます。その時に、自分は学生時代、これに取り組んだ！と自信を持って答えられるものを作ることも大切です。私の場合は、サークル、高校でのボランティア、テニスのコーチ、ゼミでのフィールドワークについて取り組み、面接でも答えました。人によって、核となるものは異なると思いますが、できる限りたくさん作れるよう、学生生活を充実させてください。

⑤ 最後に

教員採用試験を本気で目指す人は、法政では少ないと思います。しかし、これを読んでくれている人は少なくとも教員に興味を持っている人だと思います。教員採用試験は倍率が高く不安になる人もいますが、教員になれるのかが不安で民間に行ったところで、後悔をしませんか。後悔するくらいなら、いま圧倒的な努力をして、先生になりましょう。法政には、教職課程センターの先生方や仲間がいます。夢が叶うのか、と思う人もいるかもしれませんが、やらなければ実現する可能性は0%です。不安もあるかと思いますが、それは努力不足だからです。みなさんの希望する進路、夢は異なるかもしれませんが、各々の夢に向かって、圧倒的な努力をして、夢を叶えましょう。法政出身の先輩として、影ながら応援しています。がんばってください！

「掴み取った現役合格」

陶山 葵（社会学部社会学科4年）

神奈川県中学校・社会科の教員採用試験を受験し、合格をいただくことができました。

私は体育会に所属をし、引退が4年の11月であったため、教員採用試験と部活動とどちらも本気で取り組んできた大学生活であった。そのため、人よりも時間がない中での試験であった。忙しい中での合格を勝ち取れた方法について述べたいと思う。

①教員採用試験を意識し始めた時期

私は先ほども述べたように、自分には時間が限られ

ていることが考えられていたし、どちらも中途半端にはしたくなかった。そのため、教員採用試験を意識し始めたのは、3年の5月頃である。そして、本格的に取り組み始めたのは10月頃である。

②一次試験の勉強方法

大学受験は推薦で入学したため、試験に自信はなく、知識も周囲と比べて劣っていると感じていた。さらに、教員採用試験はどのように勉強してよいかのわからなかった。そのため、最初に大学にある教職課程センターを訪ね、相談をした。最初に過去問を見た時に、難しい！と思った。まず、専門教科の勉強法については、知識不足であったことから、始めは高校入試用（中学生用）のテキストを2冊取り組んだ。その後は、教採専門の中学社会に組み込み、最後は、昨年度の全国の中学社会の試験に取り組んだ。中学社会なので、広く、浅く学べるように工夫した。次に、教職・一般教養の勉強法について。こちらは、予備校に10月から3月まで、夜間部という形で取り組んだ。そのため、この頃は朝練、大学の授業、予備校という日々を過ごしていた。予備校の授業、内容の暗記、問題演習の繰り返しを行っていた。そのため、当日は8割とることができた。どちらの勉強も、参考書の冊数をこなすよりも、取り組んだ参考書を完璧にするまで、取り組んだ。一次試験は、やってきたことが、合格へつながったと思う。

③二次試験対策

二次試験対策は、一次試験が終わってから取り組んだ。二次試験日が夏合宿の翌日であったことから、時間が限られていると思い、可否の判定に関わらず取り組んだ。神奈川県の場合は、模擬授業・集団討論・個人面接の3つである。これらの対策は、多摩の教職課程センターだけではなく、市ヶ谷の教職課程センターも活用した。また、部活動の教員OGの方へ相談することや、他大学の教採の友達などとも取り組んできた。それぞれの試験では、どのようなことが求められているのかが、自治体のHPなどに載っているので、それらを意識することが大切である。一次試験とは違い、二次試験は仲間と協力して、対策を進めることが良いと思う。私は“生徒第一”を軸に取り組んできた。何でもよいが、何か軸があると取り組みやすい。自分一人で取り組むよりも、様々な人と行うことによって、良いところや気を付けたいところなどが見えてくる。

④最後に

私が、現役合格を掴むことができたのは、大学での経験や様々な人の理解、助けがあったからである。私一人では、達成することはできなかった。一次試験は個人の努力によって、合格することはできると思う。しかし、二次試験に自分が自信をもって望むことがで

きたのは、体育会で、人前で話すこと、いろいろな人と話すことをたくさん経験してきたこと、そして、なにより、大学生活で様々な経験ができたからである。多くの人のサポートがあって、この合格に繋がったと思う。教採はとても難しい道のりですが、教員になりたいと強く思う気持ちが大切です。勉強で心がおれそうなときは、自分がどんな教員になりたいのか考えてみてください。

「いかに効率よく勉強するか」

駒形 友里

(スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年)

私が教員採用試験を意識し始めたのは、3年の11月です。しかし、真剣に勉強に取り組み始めたのは3年の3月でした。教育実習もあったため、7月の1次試験までで実際に勉強したのは3ヶ月ほどだったと思います。また、2次試験も、1次試験の合格が出てからの10日ほどで準備をしました。そんな私が教員採用試験合格のための自分の行動を振り返り、大切なことは、自分が受ける自治体の問題傾向や特色をつかみ、いかに効率よく勉強し、対策を練るかであると思います。

1次試験でも2次試験でも、まず勉強を始める前にやることとしては、自分の受ける自治体のそれぞれの配点とだいたい最低ライン、重視されるものがどれなのかを知ることだと思います。自治体のホームページや先輩方から情報を頂きました。私の受けた自治体は、1次試験は、教職教養と一般教養で100点、専門教養で100点の200点満点、2次試験は、個人面接で200点、模擬授業(協議を含む)で60点、論文で40点、実技で120点の420点満点でした。1次試験は、その年にもよりますが、だいたい6割ほど取れば通過できます。2次試験でも、6割ほど取れば合格できます。その中でも、1番大事なのが面接です。面接がほぼ合格を左右します。しかし、面接の前に行われる模擬授業を見て良さそうな人を選別し、面接で人間性を確認するらしいので、配点が低いからと言って模擬授業をおろそかにしてはいけません。また、実技も配点は高いですが、みんなそれなりに動けるので、大きな差はつきません。論文は、正直言ってそこまで重要ではなく、全く論点がずれたことを書かなければ大丈夫です。

では、勉強についてですが、1次試験は、とにかく勉強することです。それ以外はありません。まずは、教職課程センターや先輩方から大まかな流れや勉強方法などの情報を頂き、参考書と過去問を買いました。1番最初にやることは、過去問分析です。私は、教職教養の勉強では、参考書に過去5年間で出題された分野が

細かく記載されていたので、勉強する分野を3回以上出題された分野に絞りました。2回以下の分野は全く手を付けませんでした。専門教養の勉強では、私の受けた自治体では、学習指導要領がそのまま出ていました。出題されたところをチェックしてみると分かるのですが、出るところと出ないところで大きく分けることができます。また、競技のルールは、出ても1.2問です。私は、学習指導要領の出そうなポイントを全て暗記しました。出題範囲が限られている専門教養は、唯一高得点を狙えるところだと思い、満点を取るつもりで勉強しました。一般教養では、塾講師をやっていたこともあり、全く勉強せずに挑みました。分析ができたなら、ひたすら勉強というか、とにかく覚える作業です。そして、試験の1ヶ月くらい前から、自分の受ける自治体の過去問演習をして自分の実力を試し、勉強が足りていないところを見つけ、また勉強する範囲に付け加えていく方法でやっていきました。

2次試験は、とにかく準備することです。私が先輩に言われたことは、「良い授業、良い面接は求められていない。どれだけ一生懸命この試験のために準備してきたかが見られている。面接官は全員、教育のプロ。少しでもたるんだ気持ちがあればすぐ見抜かれるよ。」です。これを肝に銘じてひたすら練習しました。模擬授業では、導入の部分しか行わないので、そこでどれだけ興味を持たせられる内容や話し方をするかが重要です。先輩の中学校で多くの先生方の前で何回も模擬授業をし、講評を頂き改善をして、流れを固めました。本番ではそれを披露した、というようなイメージです。面接では、先輩に、これを準備しておけばほぼ大丈夫と言われて100問以上ある質問例をもらい、その回答をノートにまとめました。理想の教師像や、教師になったらどんなことをしたいのか、自分でイメージできれば、そこまで大変ではないと思います。実技は、教育実習先の体育館やグラウンド、市民プールなどに毎日通い、練習をしました。

ここまで教員採用試験について述べてきましたが、たくさんの人の支えや協力があってこそその合格だとしても感じています。これから試験を受けるみなさんも1人で頑張らず、周りの人と協力し助け合いながら頑張してほしいと思います。

「私立学校の教員採用試験に向けて」

相沢 結芽

(スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年)

1. はじめに

私は4月から神奈川県内の私立の学校で保健体育科の教員として内定をいただきました。みなさんの中に

も公立学校だけでなく、私立学校の採用試験を受けようと思っている人もいないのでしょうか。これから私立学校の採用の探し方、試験の流れと内容、勉強方法について述べたいと思います。

2. 私立学校の探し方

私が私立の教員の募集を探したのは、公立の採用試験の1次試験を受け終わった直後からでした。主に日本私学教育研究所のHPや、各学校のHPから教員の募集情報を探しました。私学の募集は5~7月、7~11月、12~3月と大きく分けて3回あります。そのうち12~3月の募集はほとんどが非常勤講師の募集なので、専任や常勤教諭になりたいのであれば、早いうちからこまめにHPをチェックすると思います。(常勤講師とは、専任教諭と仕事内容に変わりはありませんが、1年間や3年間などの契約期間が決められているものです。)私学は教科によって募集が集中することがあり、特に保健体育科や社会科は1人の枠に100人ほどの募集がある場合もあるようです。

3. 採用試験の流れと内容

採用試験の流れは、各学校によって異なりますが、だいたい1次試験から4次試験まであります。1次が書類審査、2次が筆記試験、3次が模擬授業・面接・実技(保健体育科のみ)、4次が最終(校長)面接です。1次の書類審査では履歴書や志望動機書をもとに合否が判定されます。私の場合、内定をいただくまでに5校の学校に応募して、1次を通過したのは2校でした。私立は年齢や性別、もってほしい部活動や教員経験など、様々な条件を踏まえて選考するので、毎回1次で落ちるから教員に向いていないのかも…とあまり落ち込まないことも大事だと思います。模擬授業の内容は学校によって異なり、保健も体育もありました。また、事前に単元を言われて指導案を準備して行く学校もあれば、試験当日に単元を言われて15分間で考える学校もありました。私が受けた学校は、3次試験の4日前に模擬授業・実技の内容を言われました。そこから試験当日までに指導案を作成したり、1分間のダンスを曲から選んで創作したりすることがとても大変でした。実際に教員になったとき、短い時間で授業の準備をしなければならないので、試すために故意的にそうしておっしゃっていました。1人ですべて考えようとすると大変なので、周りの人に協力を求めることも大事だと思います。

4. 勉強方法

2次の筆記試験の勉強方法は、基本的には公立の採用試験と同じだと思います。しかし、私学は一般教養や教職教養よりも、専門教科を重視している学校が多いと感じました。保健体育科は、特に保健の内容に力を入れて勉強すると思います。特に、現代

の感染症の部分は模擬授業でも筆記試験でも頻出しているように感じました。また、AEDに関する問題も、筆記試験・実技・面接で出題が多いと感じました。AEDや心肺蘇生法は教員になるなら絶対に知識や技術を身に付けておかなければならないと思います。面接では、模擬授業で何を意識したかや、場面指導、どのような教員になりたいかなど、様々なことを聞かれます。公立の採用試験の面接と違うところは「なぜ、本校なのか」や「どのくらい本校を知っているか」を聞いてくる質問があることですので、面接を受ける前に学校のHPなどから校風・教育目標・特色をしっかり理解しておくことが最重要です。また、嘘などはつかずに素直に自分が思ったことを一生懸命伝えようとするのが1番大事だと思います。これは何回も練習すればできるようになってくることです。面接が苦手だと感じている人は、教職課程センターや2次対策を活用して練習してください。私の場合、大学2年生から始めた塾講師のアルバイトがかなり強みになったと感じています。面接や模擬授業ではその経験を活かして堂々と自分を表現することができました。皆さんも支援員や学習ボランティア、部活の外部指導者などしている人も多いと思います。その経験からどのようなことを学んだか、どう活かしていけるかを自分の中で整理しておくのと良いと思います。模擬試験は、A判定をとれるようにしておく、教育実習に専念できるとアドバイスをいただいたので、参考にしてみてください。

5. 最後に

このように私が合格することができたのは、教職課程センターの重田先生をはじめとする先生方、一緒に励ましあって勉強してきた仲間、実習先の先生方など、たくさんの方の力を借りたからです。同級生の就活がどんどん終わり、公立を受験した仲間の採用試験も終わったりするなかで、不安や焦りを感じながらも諦めずに最後まで頑張れたのは、周りの方々の応援あってだと感じています。みなさんも、1人で頑張ろうとせずに周りの人の力を借りながら頑張ってください。私立学校はネットにも試験の詳しい内容が載っていないので、不明な点が多いと思います。筆記や面接、実技、模擬授業の内容など気になることがあれば聞いてください。試験までは教育実習もあり、やることが多く大変だと思いますが、頑張ってください。応援しています。

「私の試験勉強」

秋山 湊太

(スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年)

私は神奈川県高等学校保健体育科の教員採用試験に

合格をすることができました。ここでは、私が試験勉強に取り組んできたことや感じたことを紹介したいと思います。

私が試験勉強を終えて感じたことは、試験勉強を始める前に自分の受ける自治体の傾向を知り、特徴をつかむことが重要であるということです。試験範囲全体をまんべんなく勉強するというやり方もありますが、私の場合は出題傾向を分析し、出ないであろうと思われる範囲はあまり勉強しませんでした。出題頻度に応じた勉強時間の配分をしました。

神奈川県では一般教養から 30 点分出題されます。一般教養は勉強しなくてもある程度できてしまう人もいれば、しっかりと勉強しなければできない人もいます。一度過去問題などを解いてみてどの程度できるかを確認しておくことを私はお勧めします。

「試験勉強はいつから始めればいいのか？」

私の答えとしては早く始めれば始めるほどいいと思います。できるだけ早く進められれば、余裕をもってできるので教育実習期間に勉強ができなくても焦ることがありません。そして、最もよくないのが周りの人がやっていないから自分もやらなくてもいいというような考え方だと思います。逆に周りの勉強している友達から刺激を受けて自分の勉強にプラスにつなげるのはいいことだと思います。

一次試験はしっかり勉強をすれば合格できると思いますが、後になって後悔しないように勉強をする時間を確保することをお勧めします。

神奈川県の二次試験では面接、模擬授業、協議、論作文の 4 つがあります。これらの対策として共通することは一人で行わずに、一度は誰かに見てもらったほうがいいと思います。論作文は友達や教職課程センターの先生方、第三者に見てもらうことによって自分では気が付かなかった新たなことに気付くこともあります。また、面接の練習は教職課程センターでもやってくださるのでそこでやってもらうか、教育実習先の先生や管理職もやってくださる可能性があるので少なくとも一度はやっておくといいと思います。練習しておくとも本番までの不安が軽減されると思います。そして、本番では嘘偽りなく自分のありのままに臨んだほうがいいと思います。

ここまで自分が試験勉強を通して感じたこととなります。来年度やまたそれ以降に教員採用試験を受けようと思っている人に参考になれば幸いです。これから長い試験勉強の日々が続きますが全力で頑張ってください。

「成長の期間」

小阪 光明

(スポーツ健康学部スポーツ健康学科 4 年)

私は、東京都中高共通・保健体育科の教員採用試験で合格をいただきました。ここでは、私が試験までに行ってきた対策を紹介します。

① 勉強の開始時期

私が教員採用試験の勉強を開始した時期は 3 年生の 11 月でした。私は、部活動に所属していたので、その部活の引退し 1 週間ほど経ってから勉強を始めました。教員採用試験の勉強は 1 年間ほどかかると聞いていたので、焦る中でのスタートとなりました。

② 計画を立てる

私は教員採用試験に関しての情報が皆無であったので、教職課程センターの先生や、前年度の教員採用試験に合格した先輩に話を聞く機会を設けました。そこで、東京都の教員採用試験に関する情報、傾向や勉強方法を知り、勉強の計画を立てました。4 年生になると教育実習などがあり、採用試験の勉強に時間を割くことができません。そのため、私は、4 月を迎えるまでに一通りの勉強を終わらせるという計画を立てました。勉強の計画を立てることは非常に大切なことであると実感しています。

③ 1 次試験

1 次試験の対策をするにあたり、東京アカデミーなどの予備校には通わず、独学で勉強しました。まず行ったことは、「教職教養らくらくマスター (実務教育出版)」の暗記です。赤く示されている部分を暗記しました。教育法規と教育原理は 12 月末までに一通り暗記しました。そこからは、様々な問題集を解いて、知らなかったことや「らくらくマスター」に載っていないことを付箋で貼り、自分だけの最強のらくらくマスターを作りました。教育史と教育心理に関しては、単語帳を作り、自分だけの最強の単語帳を作りました。単語帳は通学中やお風呂の中でも使えるので非常に便利でした。

専門教養に関しては「東京アカデミーのステップアップ問題集」で 2 月から暗記を始めました。やり方は重要だと思う部分に緑マーカーを引き、問題の部分はオレンジのペンで答えを記入し、赤シートで隠れるようにしてから暗記をしました。暗記後、問題を解き付箋を貼り、ここでも、最強のステップアップ問題集を作りました。

教職教養や、専門教養には様々な資料からの問題が出題されます。そのため、問題集に出てきた資料はすべて学校で印刷し、一通り目を通しました。

小論文は、2 月から教職課程センターの重田先生に

添削をお願いし、毎週1本の小論文を書きました。初めは合格論文を真似て受かる論文の構成をしみこませました。また、ともに課程センターに来ていた仲間と互いの論文を添削し合うことで、徐々に書き方を覚えていきました。私は、小論文が最も不安でしたが、コツをつかんでしまえば、そこからはひたすら書いて自分なりの形を作っていくことをお勧めします。何よりも、様々な先生や、仲間に見てもらうことが最も大切だと思います。

模擬試験に関しては、3月以降のすべての模擬試験に申し込みをしました。当日受けることができないとしても、自宅受験でも申し込み、問題をもらうという形をとっていました。

④ 2次試験

2次試験対策は、多摩の教職課程センターだけでなく、市ヶ谷の教職課程センターを含め、すべての講座に参加するようにしました。予測される様々な質問に対しての答えを先生方からの指導を参考にしながらまとめ、1冊の最強のノートを作りました。このとき意識したことは、「試験官が『この人と働きたい』と感じるような答え」を考えることです。

実技試験に関しては、面接試験の終了後、ほぼ毎日スポーツで練習しました。ほとんどの種目ができなかったため、専門の種目やその種目が得意な友人・先生に協力してもらい、朝10時から16時頃まで練習し、なんとか間に合わせることができました。

⑤ その他

勉強時間は、毎日8時間を目標にし、ストップウォッチで測定していました。授業のある日は、空きコマや帰宅後の時間を使って勉強をしました。

中学校の学習支援ボランティアや高校の臨海学校のコーチなど自分が成長できると感じたものには勉強の時間を削ってでも、すべて参加しました。これらの経験があったからこそ、合格につながったと確信しています。

アルバイトは11月～1月は週3日、2月～4月は週2回、5月は週1回、そこから6月以降は1次試験終了までお休みをいただきました。

教育実習期間はその1週間前から一切の採用試験の勉強をせずに実習の準備などを行いました。

⑥ 最後に

私がこの試験期間中に自分の中で心に決めていたことは「後悔をしないこと」です。迷ったらすべて挑戦するというスタンスで過ごし、もし試験の結果がダメだったとしても、「これだけやったのだからしょうがない」と割り切れるくらいやろうと考えていました。

教員採用試験の勉強は半年以上の長い戦いです。この期間は間違いなく自分自身を成長させてくれます。

行き詰ったときや、つらいときは、仲間と励まし合いながら、その壁を乗り越えていってほしいと思います。試験が終わるころには今よりも、ひと回りもふた回りも成長している自分がいるはずです。がんばってください！

教員採用試験体験談

大内 知佳（理工学部創生科学科4年）

私は今年の春から東京都の公立学校で理科の教員として働きます。教員採用試験を受験するにあたって、私が行ってきたことなどを書きたいと思います。少しでも参考にしていただけると嬉しいです。

① 1次試験の対策について

私は、教員採用試験の勉強を1月ごろから始めました。教員採用試験の問題は、各自治体によって傾向があります。これらの傾向を把握するために、私は、まず2年分の過去問を解きました。教職教養に関しては、その傾向に沿って、頻出単元を中心に演習を行いました。専門教養に関しては、センター試験の過去問、高校時代の物理の問題集を、繰り返し解いていきました。

東京都は、教職教養、専門教養の試験に加えて、論作文の試験があります。私は、論作文に力を入れて、取り組みました。論作文に関しては、論作文を書いて、添削してもらうということを繰り返し行っていくと思います。また、一人の先生に添削してもらうのではなく、他キャンパスの教職課程センターの先生や、同じ受験生同士で添削し合うのもいいと思います。

② 2次試験の対策について

東京都の2次試験の内容は、集団討論と個人面接です。これらで、面接官にみられているのは、他者とのコミュニケーションを、しっかりとることができるのか、だと感じました。ゆえに、2次試験において、私は、面接官や集団討論で同じグループの受験生と笑顔でコミュニケーションをとることを意識して行いました。もちろん、各自治体の求める教師像や、教育目標などはしっかりと知っておく必要があると思います。しかし、それ以上に、他の受験生や、面接官とコミュニケーションをとることが大切であると感じました。

③ 教員採用試験を終えて

教員採用試験は、民間の企業の就活より、終わる時期が遅いです。周りの友人が、続々と就活が終わっていく中、自分だけ進路が決まっていないという環境になります。私は、外部の院試を受けている友人がいて、夏休みなど一緒に勉強することができました。今思うと、その友人が、大きな支えになっていたと感じます。みなさんも、教採を受ける友人、一緒に頑張ってくれる仲間と共に、受験勉強頑張ってみてください。応援

しています。

みんなに感謝！

木本 宣貴（生命科学部生命機能学科 4 年）

私は、今年の春から大阪府の公立高校の理科教員として働きます。今これを読んでいる皆さんの少しでも参考になればと思い、私の採用試験の日々について記します。

① 筆記試験について

理科は物理・化学・地学・生物の 4 科目すべてが出題されるため、馴染みの無い科目も勉強しなければなりません。専門科目の勉強は 3 年生の 8 月から始めました。試験直前期には過去問演習を友人と一緒にやり、間違えたところをお互いに教え合いました。得意な科目はみんな違うので、とても効率よく勉強ができました。教職教養は 3 年後期のテスト期間が終わってから始めました。市ヶ谷と小金井キャンパスの講座に通いました。午前は市ヶ谷、午後は小金井キャンパスなど一日中講座を受けた日も多くありました。教職教養はなかなか一人では要点を押さえることは難しいので、先生の話をしっかり聞いて勉強をすることが大切です。これは専門・教職教養ともに言えることですが、一人で長時間やっていると勉強が手につかなくなる時があります。時には、同じ夢をもった仲間と一緒に競い合い、励まし合いながら勉強することをお勧めします。

② 人物試験について

私の自治体では人物試験として模擬授業と個人面接がありました。人物試験は一次試験が終わってからでも遅くはありません。私の場合は人物試験が苦手だったため、4 年生の 5 月から対策を行いました。教職センターの先生や一緒に合格を目指す仲間に見てもらいながら何度も繰り返し練習しました。お互いの欠点を指摘し合いながら弱点を克服しました。自分のクセなどは他人から見ないと分かりません。また、他人の人物試験の様子を見ることは自分にとってかなり有益です。人物試験は一人ではやらずにみんなと協力することをお勧めします。

③ 採用試験を振り返って

私が合格できたのはたくさんの支えてくれる人がいたからです。休みの日まで添削を見てくれた先生や、辛いときに勇気づけてくれた仲間、みんなのおかげで合格を勝ち取ることができました。

そして最後に「決してあきらめないことが大切です。」周りの人たちの進路が決まっていくのを目にすると、焦ったり不安になったりすることもあると思いますが、必ず夢は叶うという強い意志をもって最後まであきらめずに頑張ってください。

同じ志をもつ仲間と勝ち取った合格

笛木 隆平（生命科学部生命機能学科 4 年）

私は今年の春から埼玉県の公立中学校の理科教員として働きます。教員採用試験の試験勉強開始から合格までの過程について書きたいと思います。

1 まずは情報集めから

私は、教員採用試験を受ける決意をしたものの教員採用試験についての情報が全く分かりませんでした。そこで、まずは試験に関する情報集めから始めました。具体的には、教職課程センターや現在埼玉県教員をしている友達、アルバイト・大学の先輩、中学生時代の担任、顧問など様々な方から教員採用試験に関する情報を集めました。その中で、1 次試験（筆記）の試験科目や勉強方法、どの程度の知識が必要なのかを様々な方からの話から聞いて自分の勉強に生かしました。しかし、埼玉県は 1 次試験の中に専門教養（100 点）と一般教養・教職教養（100 点）があったため、思うように勉強が進みませんでした。そんな不安の中、舞い込んできた情報が大学推薦でした。大学推薦を使うことで一次試験が免除になるとのことだったので、方針を切り替えて大学の GPA をとることに専念しました。大学 3 年次の頑張りが功を奏し、推薦を勝ち取ることができました。大学推薦を勝ち取った後、2 次試験に向けて再び試験勉強に戻りました。埼玉県の 2 次試験では、個人面接、集団討論、論作文、実技試験があったので、まずは論作文から対策を始めました。最初は何を書いているかわからず、ボロボロでしたが、田神先生の指導のおかげで書けるようになりました。結果として、腕試しで受けた東京都の 1 次試験は論作文で稼ぎ、合格することが出来ました。また、その他にも個人面接、集団討論などでも田神先生や教員を目指す仲間と助け合いながら、試験終了まで頑張ることが出来ました。

話が長くなりましたが、まずは試験に関する情報を知ることが合格への第一歩だと思います。教職課程センターや周りの人を活用して、情報集めをすることをお勧めします。

2 仲間と互いに高め合うことの大切さ

教員採用試験に合格するまでの道のりは正直辛かったです。周りの友達は夏休み前にはほとんど就活が終わって遊んでいます。そんな友達の姿を見たり、これから試験があるというプレッシャーを感じたりして、試験までの日々は気が滅入りそうでした。しかし、そんな時に救ってくれたのは、教員を目指している仲間でした。辛い時に互いに励まし合って、勉強や面接などの練習を繰り返していました。こういった支え合い

があったおかげで、私は合格できたと思っています。この経験は、今回の試験に限らず、教員になってからも生きてくるものだと思います。

これから教員採用試験を受ける人の中で、私と同じような気持ちになる人は多いと思います。そんな時、周りの試験を受ける友達のことをライバルだとは思わず、同じ志をもった「仲間」だと思って頑張ってください。

合格者体験報告記

横井 耀 (生命科学部生命機能学科 4年)

私は、山形県の中学校理科と東京都の中高理科の生物を受験しました。山形県は1次試験であと1歩及ばず落ちてしまいましたが、東京都は倍率12倍の中から運よく合格することができました。私の体験を記したいと思います。皆さんにとって参考になれば幸いです。

私は2年生の終盤に何をしなければならぬかを調べ始めました。しかし、本格的に受験勉強を始めたのは3年生の年末ぐらいからです。私は体育会の剣道部に所属していたので、なかなか勉強の時間を確保できませんでした。そこで小金井キャンパスから道場のある市ヶ谷キャンパスへの行き返りの電車の中で教職教養の単語帳を読むなど、隙間の時間をうまく使っていました。

4年生の5月に部活動を休部する前は半日部活動をし、それ以外の時間は専門の勉強に取り組んでいました。というのも、理科は物理、化学、生物、地学の4つの分野を網羅する必要があったからです。私は高校で化学と物理を取っていましたが、物理に苦手意識があったので、この2か月で特に重要視して取り組みました。また、生物に関しては友人に教えてもらいながら、地学は友達と一緒に勉強して理解を深めていきました。教職教養は覚える量が膨大で、東京都の場合は細かいところまで問われる問題が多かったため、友人と問題を出し合いながら取り組みました。部活動を休部した後は、卒論の研究と勉強の両立が非常に大変でした。しかし、集団討論の練習などで、他の教科の教職を目指す仲間が増えたことでモチベーションを下げることなく、最後まで突き進めたように思います。

山形と東京の採用試験を受けて感じたことは、地方の採用試験受験者の方が対策をしっかりしているように感じました。というのも、東京都の2次試験の集団討論では、あまり練習していないような受験者も見受けられました。仲間との練習の方が質が高かったように感じます。東京都の場合はそういった人も受験者のなかにはいるので、討議の流れがおかしくならないよ

う気をつけてください。2次試験の面接では自分の志望動機や思いをしっかり持っていれば大丈夫です。ただ、場面指導などでは様々な突っ込みが入れられても慌てず、自分が経験してきたことを踏まえて冷静に対処してください。何度も突っ込まれたときは、最後は生徒への熱意と根性をみせれば面接官に響くはずですよ。

(私は何度も突っ込まれ、最後にそれで行きました。)

私は教員採用試験は団体戦というか、個人で挑むものではないと思います。集団討論や面接の練習、教職教養に加え専門分野の膨大な範囲、小論文対策。私個人では絶対に無理だったと思います。欠点や苦手な部分もお互いに指摘し合いながら克服していました。また、教職課程センターの田神先生にも小論文添削や悩んでいることの相談など大変お力添えをいただきました。私は、周囲の方々の支えが大きかったです。精神的にも不安になったりするときもあるかと思いますが、勉強し合う中でしっかりと基礎をつくっていれば大丈夫だと思います。悩んだときは同じ夢を持つ仲間と語る時間をつくったり、先生に相談したりして一人で抱え込まないようにしてください。努力は必ず自分の力になります。ぜひ、がんばってください！

「失敗」から学んだこと

鶴岡 祐汰 (理工学研究科システム理工学専攻)

私は、埼玉県の中学校等教員(理科)に合格しました。実は、昨年にも高校の理科で採用試験を受けています。結果は不合格でした(1次試験で不合格)。皆さんにお伝えしたいことは、3つです。不合格体験談と合格体験談、試験が終わってから思ったことをお話します。

この文章が、教員を目指す方にとって少しでも支えになれば嬉しいです。

1. 不合格体験談

埼玉県の1次試験は「一般教養」・「教職教養」、「専門試験」です。私の不合格の要因は2つです。電車の中や空き時間で勉強してはいたのですが、結果としてあまり進んでいない「計画性のなさ(ただただ勉強している)」。専門科目はとりあえず全部やろう、教養も満点近く採ろうとする「完璧主義(手のつけすぎ)」。私は、全部完璧にしよう!なんて意気込んで毎日勉強したことを覚えています。とにかく問題をたくさん解いて試験に挑みました。しかし、結果はどれも中途半端で不合格でした。

2. 合格体験談(1次試験)

今年は「計画性のなさ」と「完璧主義」と上手く付き合っていました。勉強法を大まかに言うならば、過去問を単元ごとに見て、「この参考書の、この部分を

勉強していれば解ける」と出所を調べます。その部分を勉強して、その単元の過去問が解ければ大丈夫!というスタンスです。

私が重点的に勉強した単元は、
「教職教養」…法規、特別支援教育に関する問題、教育史、埼玉県教育施策

「一般教養」…数学、理科

「専門科目」に関しては、物理、生物基礎、化学基礎です。学習指導要領の問題も対策しました。

不合格から感じた自分の弱点は①長期間の勉強が苦手であること。②計画を立てて勉強することが苦手。①は、1単元につき、長くて2日以内に完璧にするということで克服しました。例えば「今日は法規を完璧にして寝る!」ということです。語呂合わせか自分の言葉でまとめるなどの勉強をしました。例えば、法規は過去問で出題された条文を Word に全部まとめました。教育史は語呂合わせをつくって覚えました。②はとにかく不安を感じたらすぐ勉強するというで克服しています。細かい計画は立てていません。

私は私立の学校も考えていたので、専門科目:教養=7:3 くらいの割合で勉強しました。問題集はあまり解いた覚えはありません。完璧なまとめが頭に入っていれば、どんな問題も解けるはず!と自分に言い聞かせていました。

3. 合格体験談 (2次試験)

埼玉県の中学校理科の2次試験は「個人面接」、「実技試験」、「小論文」、「集団討論」です。

「個人面接」…どんな質問が来ても粘り強く答えることだけ意識しました。30分間で約55問答えました。面接は暗記だと思っていたのですが、55問もやりとりがあったので少し無理があります。必ず聞かれる質問や法規、政策は暗記しても良いと思います。それ以外は思った通りに答えました。面接ノートなどは特に作っていません。

「集団討論」…話しすぎかなと思ったら、誰かに話題を振る。あれ、聞きすぎかなと思ったら自分から発言する。これだけ意識していきました。頭の良さよりも人の良さが出る試験だと思います。

「小論文」…教職課程センターの田神先生からオリジナルのプリントをいただいて、勉強していました。大学院の研究もあったので、週1のペースで添削していただいていました。今年は傾向が変わりましたが、田神先生のご指導のおかげで、難なく突破できました。

「実技試験」…塾講師のアルバイトをしているから何とかなるだろうと思っていました。しかし、いざ試験になると盲点であったことがたくさん…。食塩水1つ作るのにも、ろ紙の扱い、電子てんびんの使い方、メスシリンダーの使い方など様々な要素が絡んできま

す。教科書の実験ページをしっかりと読むことをおすすめします。

4. 最後に

合格体験というと、一日に何時間勉強して、こういう計画を立てて…、面接ノートはしっかり作って…、という方が多いと思いますが、それは試行錯誤して自分に合ったやり方だから、実践したのでしょう。私は特に気にしませんでした。合格に近道や王道はないのかもしれない。

今年度やっとの思いで合格させていただきました。支えてくださった方には感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年度、まわりに合格した仲間がいる一方、自分は不合格…、悔しい思いをしたことは今でも覚えていません。回り道が多い学生生活でしたが失敗から学んだことが今、生きています。

採用試験は自分と向き合うチャンスだと思います。たくさん悩み、考えてください。そして、行動してください。応援しています。

最後まで読んでくださってありがとうございました。次は皆さんの合格体験談を読ませてくださいね!